

小噺・落語入門サロン

■ 前座 (今日の話題・話のネタ)

「ヒライ信」清音・濁音の言葉遊び



落語歳時記シリーズ 4月の落語「お血脈」

お釈迦様は、4月8日に生まれた。生まれた途端に、東西南北に7歩づつ歩いて、天と地を指さしますと『天上天下唯我独尊』とおっしゃった。檀特山(だんどくせん)という山へ行き修行をする。天竺で仏教を広めようしたんですが、うまくいかない。やがて、お釈迦様、阿弥陀様と合体をして、閻浮檀金(えんぶだごん)という一寸八分の仏体に身を替えて、我が国へやってくる。当時、日本をおさめていたのが、物部守屋。



この人は、排仏派の筆頭。「日本は昔から神の国である、さようなものは捨ててしまえ」と難波堀江という池へ放り込んだ。これを拾いあげて、信州へ運んだのが、本多善光という方。この善光さんの名前からとりまして、信州長野の『善光寺』となった。今でこそ本堂は国宝、年間600万人もの参詣人がある立派なお寺さんですが、当時は草深い田舎でお詣りに来る人がない。そこで、考え出されたのが、「戒檀めぐり」と「お血脈」というもの。「お血脈の印」を額に押してもらおうと、どんな悪いことをした人でも、罪障消滅をして極楽往生ができるという。そのおかげでみんな極楽に行ってしまうので、地獄は不景気。財政難に陥ってしまったので緊急の会議が開かれたのだった。地獄の惨状は、もちろんお血脈のせいなので、あれを盗み取る以外には解決策はないであろうという結論が出た。早速、盗人の人選をした。白羽の矢が立ったのが石川五右衛門だった。閻魔大王じきじきに血脈の印を盗むよう頼まれた五右衛門。善光寺に忍び込んで、お血脈の印を盗んでしまった。

「ありがてえ、かたじけねえ。まんまと首尾よく忍び込み奪い取ったる血脈の印。これさえあれば大願成就」と額に押ししていただいたので、スーっと極楽へ。。。。。

■ 二つ目 (小咄の稽古)

映像や音声から学ぶ、小ばなしのコツ・つぼ

「プロに学ぶ小噺の話し方」「酔っぱらいの仕草」

そのあと、皆さんの小ばなし披露とアドバイス

■ 大喜利

今回も 謎かけ で、お題は「一年生(新人)」「花見」とかけて

次回は2024年5月13日(月)「五月人形」「柏餅」